

定住自立圏構想推進シンポジウムin静岡の概要

開催日時 : 平成22年12月1日(水)13:30~16:30

開催場所 : 静岡音楽堂AOI(静岡市葵区黒金町1-9) 参加者数 : 203人



藻谷浩介氏

基調講演 : 日本政策投資銀行 藻谷浩介氏

「現役世代の減少で住民税収は下がる一方であり、物も売れない。21世紀の地域活性化は、内需維持に力を入れ、地域ブランドを確立・向上させ、個人客観光と地産地消・外消の拡大を行って、若者と女性の雇用と所得を増やすことが重要。地域の暮らしを維持するための1つの有効な手だてが定住自立圏。」

事例報告 : 青森県八戸市長 小林眞氏

「定住自立圏の取組は、医療分野において、八戸市から周辺自治体病院に常勤あるいは週1回の医師派遣を行っているほか、救急医療体制の充実を図るため、ドクターヘリを補完するドクターカーを圏域で運行。また、公共交通の分野では、圏域公共交通計画を策定し、運賃上限500円の実証実験を平成23年度後半からスタート。」



小林眞氏

パネルディスカッション

○ 滋賀県彦根市長 獅山向洋氏

「一体的な地域づくりと活性化を図るため、定住自立圏全域で事業募集を実施したところ、多くの提案があり、それを圏域の審査委員会で選定。全域で事業が展開されており、各地域が活気づいている。」

○ 香川県高松市長 大西秀人氏

「今までは県に頼る垂直補完であったが、近隣市町が助け合う水平補完の意識が職員に芽生えたのが最も大きな効果。高松市は、直島町に市所有の移動図書館車を海上輸送で派遣しており、町民から好評を得ている。」

○ 青森県八戸市長 小林眞氏

「定住自立圏に取り組んだことで、首長をはじめ事務局レベルでも自然と交流が深まり、圏域内で信頼関係を築くことができ、課題があっても進んでいくことができる。」

○ 日本政策投資銀行 藻谷浩介氏

「とりあえず取り組めることをテーマ別に取り組める相手と協力するのが定住自立圏。住民側からみて必要なことを一緒に取り組むことができ、また、地元が自由に工夫して取り組むことができる。地元が取り組むことで創意工夫があるれるまちづくりが可能となる。合併とは違うものなので、合併した市町村も取り組むことができる。」



獅山向洋氏



大西秀人氏